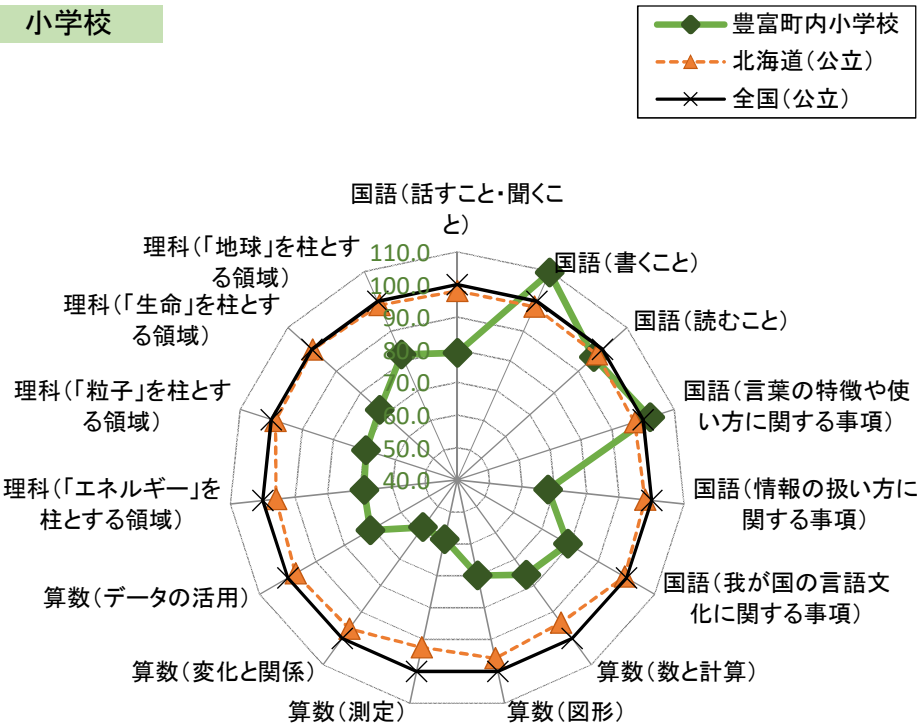


○ 教科に関する調査の状況

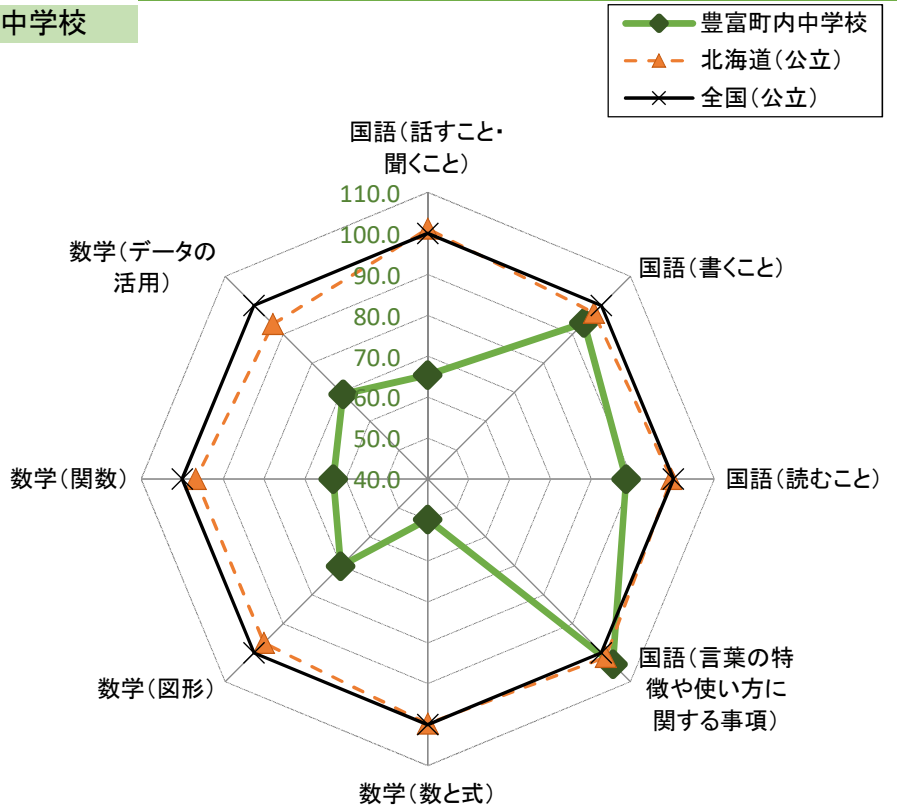
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

小学校



中学校



小学校数:2校、児童数:23人 中学校数:2校、生徒数:15人

【平均正答率・平均IRTスコア】

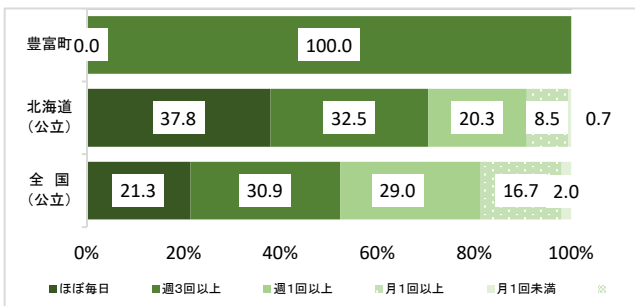
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
豊富町	62	44	43	47	30	425
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58	57.1	54.3	48.3	503

○ 質問調査の状況

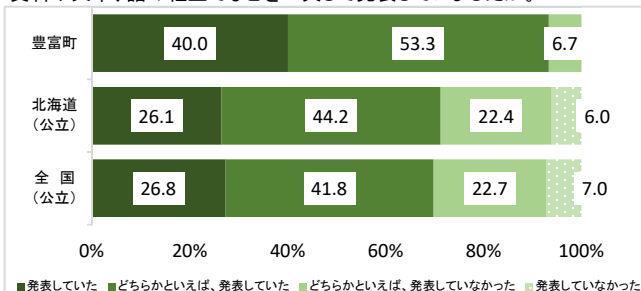
小学校 ＜学校質問＞

児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面



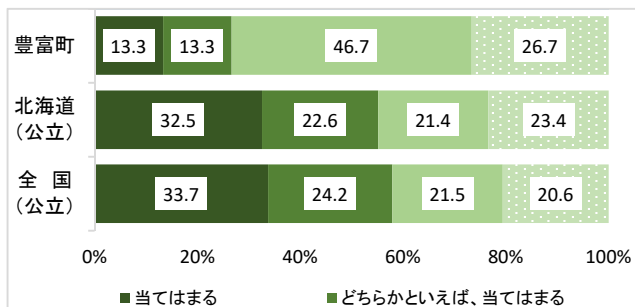
小学校 ＜児童質問＞

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



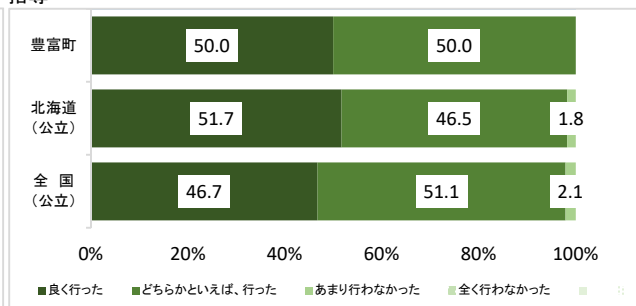
小学校 ＜児童生徒質問＞

算数の勉強は好きだ



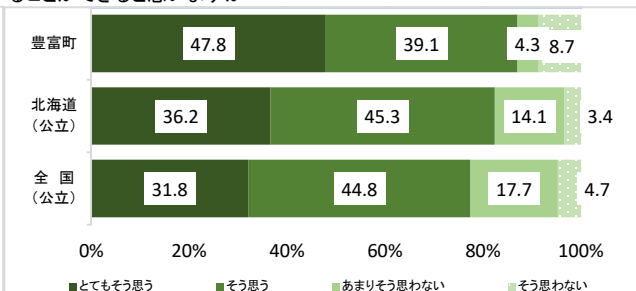
中学校 ＜学校質問＞

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることが出来るような指導



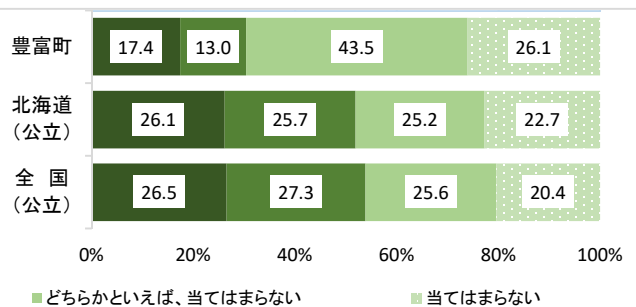
中学校 ＜生徒質問＞

PC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができると感じますか



中学校 ＜生徒質問＞

数学の勉強は好きですか



○ 調査結果の分析

- 小学校において、児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面を週3回以上設定し授業を行ったことで、児童質問紙の「授業で自身の考えを発表する機会が工夫して発表していましたか」の質問において、93%の児童が工夫を行ったと回答している。その結果、文章を扱う能力が育まれ、国語の「書くこと」及び「言葉の特徴や使い方に関する事項」において全道、全国を上回ったと考えられる。

- 中学校において、文章の構成や展開について根拠を明確にして考える指導を充実させたことで、伝えたいことを明確にするための情報の整理や、根拠を明確にする力を問う出題で正答率が全道、全国を上回った。また、ICT機器を使った表現活動についても87%の生徒が「経験できている」と感じており、特に「書くこと」に関して全道、全国との正答率の差が縮まることに繋がっていると考えられる。

- 小学校算数及び中学校数学の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、小学校算数及び中学校数学では「好き」と感じている児童生徒の割合が30%前後に留まっていること、また、基本となる「数と計算」「数と式」領域での全道、全国との正答率が差が大きいことから、早期の段階からの強い苦手意識を持っていることが原因のひとつと考えられる。

○ 今後の改善方策

- 児童生徒の授業の理解度等に応じた指導方法の工夫改善を図ることによる児童生徒一人一人の資質・能力を確実に育成する取組の推進
- 小学校及び中学校における学力の向上及び、学校において、多様な実態を抱える児童生徒の学びをサポートする支援員の配置促進
- 公設学習塾での学習やAIドリルを活用し、学習における基礎の定着と児童生徒自身による学習習慣づくりを行う。